

令和元年度 小平第二みどり作業所 事業実績報告書

1 総括

令和元年度は、平成29年度の事業再編以降、継続的に取り組んできた利用者支援におけるPDCAサイクルの充実、就労支援事業の拡充、職員のスキルアップの他、増加傾向にある精神的な安定に対する支援が必要な利用者への相談支援の充実を新たに重点目標に設定した。平成29年度に大幅な職員の異動があった後、職員の経験値の向上とともに重点目標については成果が上がっているとみていたが、職員の離職が多く、支援体制が安定せず全般的に重点目標の達成が不十分という結果となった。PDCAサイクルについては支援計画やケース記録の内容は徐々に改善が図られている一方、職員の交代や不足により全般的なスキルアップや支援内容の向上、充実はできなかったと感じている。また就労支援事業では、人手不足からクッキーやパンの生産性の低下と、新型コロナウイルスの流行に伴う販売機会の減少により、作業収益は減少し、工賃においても昨年度比で減少することとなった。しかし、利用者の就労能力においては、意識や技術面での向上が多く見られ、毎日の継続や経験の積み重ねがもたらす効果を実感している。また、相談支援においては、面談及び関係機関とのケア会議等の情報共有により、概ね一貫した支援が実施できた。

今年度は、特別支援学校卒業生を含め新たに5名の受入れを行い、利用者は年度末で在籍43名となった。給付費が増額したとともに人件費が抑制され収支状況は安定して黒字となったが、前述のように職員不足から事業運営という点では不安定な状態であった。今後、事業の充実には職員の定着率向上が重要な課題となる。職員体制の安定と利用者の増加による経営の安定化に向けて取り組んでいきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 43名（令和2年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 14名（令和2年3月31日現在）

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	3名	（常勤換算3.0）
生活支援員	8名	（常勤換算5.5）
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援

- ② 豊かな生活の支援
- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 受注作業（ポストインク作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 障がい者運動会
- 6月 江戸東京たてもの園
- 7月 みんなの音楽会（清瀬けやきホール）
- 8月 川遊び
- 9月 バーベキュー（たけのこ公園）
- 10月 一泊旅行（長野県諏訪方面）
- 11月 カラオケ
- 12月 忘年会（ボーリング大会）
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 コロナウイルスの影響により中止
- 3月 花見（丸井研修センター）

6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～9:00
朝礼	9:15～9:30
作業	9:30～10:30
休憩	10:30～10:45
作業	10:45～11:45
片付け	11:45～12:00
昼休み	12:00～13:00
昼礼	13:00～13:05
準備	13:05～13:15
作業	13:15～14:15
休憩	14:15～14:30
作業	14:30～15:30
終礼	15:30～15:50
送迎	15:50～16:30
清掃・記録等	16:30～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 利用者の就労支援の充実

- ①個別支援計画における作業支援計画を丁寧に作成し、評価、見直しを実施する
- ②作業技術の向上と作業の可能性の伸長
- ③作業に対する意識の向上と職業人としての成長を支援する。

【成果と課題】

- ① 利用者一人ひとりに作業支援計画を作成し、上半期終了後に計画の達成度の評価を行った。計画は各利用者の実際に行っている作業を継続する内容を主に作成したため、概ね目標達成という結果が多かった。見直しでも大きな計画変更がないケースが殆どであったが、6名については見直し時に新たな作業工程等へのチャレンジを計画に盛り込むなど、スキルアップの要素を取り入れることができた。また、計画やケース記録の内容は昨年度に比べて向上が見られたが、計画と実際の支援との関連付けや支援スキルは全般的に不十分であったと感じている。
- ② ③ 職員の交代が多く、支援体制が不安定な状態となったが、利用者の目標に対する到達度などは職員間で共有でき、概ね統一された方針で支援が行えた。また、同じ作業の継続や新たな作業への挑戦などの経験とともに技術や意識の向上がみられた利用者が多かった。クッキー及びパン製造では、6名の利用者が新たな作業工程や作業種を習得した。

(2) 就労支援事業の収益拡大

①クッキー事業

目標売上 31年度7,000,000円
(前年度実績 6,900,000円より10万円増額)

ア、担当職員の技術向上

イ、夏場の売り上げ減少期への検討

- ・ゼリー等のクッキー以外の商品開発
- ・急速冷凍機の導入について検討する（夏場に作り置きを行う）

ウ、売上目標に対する達成数値の管理を徹底し、計画的な製造や販売を行う。

① 【成果と課題】

人手不足による生産低下が主な原因となり、売り上げは、前年度比約80万円減となり、目標の700万円には、100万円程度不足する結果となった。また、包装資材の高騰により、純利益も減少する結果となった。更に、3月に新型コロナウイルス流行の影響で売り上げが減少することとなった。職員の不足により、時間外勤務が増加するなど、職員への負担も課題となった。

《クッキー売上》

	30年度	令和元年度	増減
総売上額	6,889,845円	6,065,427円	△824,418円
純利益	4,738,270円	3,985,432円	△752,838円

《新型コロナウイルスの影響による売上及び収益（利用者工賃を除く）の減少額》

(影響時期：3月)

見込んでいた売上	650,000円	【内収益 409,500円】
売上額実績	577,126円	【内収益 367,306円】
差 額	72,874円	【内収益 42,194円】

※3月に中止となったイベント件数11件（計16日間）

- ア 年度当初は、必要数の職員4名を配置し、1名は、作業の統括をしながら後輩職員への指導を行うこと、1名は、作業統括を目標とすること、他2名は、入職後1年未満の職員であることから、自身の作業技術の向上を目標とし新年度がスタートした。しかし、新人職員の2名が上半期で退職し、その後、職員の補充ができなかったことから、8月以降は、常時2名不足した状況で製造を行うこととなり、製造数は低下する結果となった。また、作業統括を目標としていた職員が年度末で退職することとなり、次年度は、1名以外は製造作業に慣れていない職員で構成されることから、まずは技術面等において一から指導を行う状況となった。
- イ 6月よりクッキー以外の商品開発に向けて、ゼリーやドライフルーツ入りのパウンドケーキ、アイスサンドクッキーの試作を行ったが、商品化に至ったものはなかった。ゼリーについては、設備投資等に資金がかかり、採算の可否が不透明なため、取りやめた。また、生地の長期保存の可能性を考慮し、急速冷凍機の導入を検討したが、業者より、「冷凍後最大でも3週間程度しか品質を保つことはできないうえ、冷凍後のクッキーの焼き上がりにも影響がでるため、お勧めはできない。」との説明があったことから、こちらについても取りやめることとした。
- ウ 製造数及び売上目標を設定し、毎月その達成度を職員間で共有したが、人員不足等の実情に合わせた目標数の見直しは実施しなかった。

②パン事業

目標売上額 令和元年度 2,900,000円

(前年度実績 2,800,000円より10万円増額)

ア、担当職員の技術向上

イ、販路拡大

新規販売先開拓のほか、昨年度より開始している市内都立高校のパン販売を安定して実施する。

ウ、売上目標に対する達成数値の管理を徹底し、計画的な製造や販売を行う。

②【成果と課題】

クッキー事業と同様に、人手不足による生産性の低下が主な原因となり、前年度比約40万円減の238万円となり、目標を50万円程度下回った。また、純利益も前年度比40万円程度減少することとなった。また、新型コロナウイルスの流行の影響もクッキー事業と同様であった。職員の不足により、時間外勤務が増加するなど、職員への負担も課題となった。

《パン売上》

	30年度	令和元年度	増減
総売上額	2,818,169円	2,389,811円	△428,358円
純利益	1,894,446円	1,460,349円	△434,097円

《新型コロナウイルスの影響による売上及び収益（利用者工賃を除く）の減少額》

(影響時期：3月)

見込んでいた売上	190,000円	【内収益	114,000円】
売上額実績	154,460円	【内収益	92,676円】
差 額	35,540円	【内収益	21,324円】

※3月に中止となった委託販売日数：10日間

ア 配置職員3名の内1名に対して作業統括のための指導を行った。技術等の向上がみられており、統括の役割を徐々に果たせるようになってきている。

イ 4月より、東京障害者職業能力開発校の販売を開始したほか、昨年度より継続して市内都立高校のパン販売を行った。どちらも3月以降は新型コロナウイルスの影響から販売中止となったが、それ以外では年間を通して安定した販売を実施することができた。開発校では、4月より月平均6日程度販売し、1日平均19個の売上があった。都立高校では、4月より月平均10日程度販売し、1日平均21個の売上があり、昨年度の1日平均売上個数34個と比べて売上個数が減少した。定期的な新商品の開発によるパンの種類増加など、顧客を飽きさせないための取り組みが不十分であったことも売上減少の一因と考えている。

ウ クッキー事業と同様に、製造数及び売上目標を設定し、毎月その達成度を職員間で共有したが、人員不足等の実情に合わせた目標数の見直しは実施しなかった。

(3) 工賃向上

上記(2)の通り、就労支援事業収入の増収目標を年間20万円、この内収益を60%の12万円とした場合、1日平均利用者37名、年間利用者数444名で試算すると、月額平均工賃の増額は270円となる。

【成果と課題】

前年度と比較して、作業収入が減少し、これに伴い工賃も減少した。

《就労支援事業収支及び月額平均工賃》

	30年度	令和元年度	増減
就労支援事業収入	11,457,312円	9,894,426円	△1,562,886円
作業経費	3,307,478円	3,010,227円	△297,251円
工賃支給総額	7,898,580円	6,679,490円	△1,219,090円
月額平均工賃	16,015円	12,415円	△3,600円

(4) 相談支援の充実

気持ちが不安定となり生活や対人関係に不安を抱えている利用者の相談支援を充実させ、安定的に就業が行えるよう支援する。

- ①個別支援計画に気持ちの安定の為の相談支援内容を具体的に盛り込み、計画的に支援を行う。
(定期面談の実施など、頻度や時間等を具体的に設定する)
- ②家族、関係機関(就労生活支援センター、地域自立生活支援センター等)、医療機関と連携し、情報共有や支援方針の統一また協力体制の構築を図る
- ③相談内容やそれに対する支援内容や評価などを、連続性を持って記録し、支援に有効活用する。
(相談支援記録の作成)

【成果と課題】

対人関係に課題を抱える5名の利用者に対して、次のような支援を行い、3名については概ね安定して通所が継続できている。残りの2名の内1名は高齢ということもあり、福祉サービスを終了し、在宅での生活を希望した。もう1名は就職活動を行うこととなり退所となった。

- ① 個別支援計画に沿って面談等を実施した。頻度は、利用者の状況によって変わり、少ない方で月に1回程度、多い方で週に1~2回程度となった。面談というと構える利用者も多かったことから、自然な会話形式で行うことも多かった。内容は事業所以外での人間関係や家族との関係についての悩みが多く、具体的な解決策の提示よりも、話すことで気持ちの安定化につなが

ることが多かった。

- ② 必要に応じて、家族、関係機関等とケア会議を開催し、情報の共有や支援方針の統一を図った。関係機関とは支援協力の上で良好な関係が築けた。
- ③ 支援の方針や経過を職員間で共有するため、相談内容等はミーティング等で情報共有したほか、ケース記録へ記載した。職員間の共有は概ねでき、一貫した支援が行えた。

2) 人材育成

(1) 職業指導員、生活支援員

- ① 作業支援計画を基に支援方針の統一を図ると共に、一人ひとりに丁寧な支援を実施する。
- ② 支援経過の記録を丁寧に行うと共に、ミーティング等で報告し合い、支援計画の実施状況や達成度について情報の共有を図る。
- ③ 共有した情報を基に、職員間で意見交換を行い、支援の充実を図ると共に、必要に応じた計画の見直しを行う。

【成果と課題】

- ① 会議やOJTで共有を図り、概ね支援方針の統一は行えたが、職員の交代が多く、全般的な支援技術の向上や支援の丁寧さは不十分という結果となった。
- ② ③
記録は丁寧に作成されており、ミーティング等で報告し合うことで支援経過などの共有化も図ることができていたが、支援計画の見直しや再作成は遅れがちとなった。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

利用者受入れの中長期計画（近隣の特別支援学校卒業生、自治体、支援センターからの紹介者など）を以下の通り設定する。

令和元年度（2名受入）

1日平均利用者37人（44人在籍）（30年度1日平均利用者数35人）
職員態勢13名（常勤換算11.5名 管理者含む）

令和2年度（2名受入）

1日平均利用者39人（46人在籍）
職員態勢13名（常勤換算11.5名 管理者含む）

令和3年度（2名受入）

1日平均利用者41人（48人在籍）
職員態勢14名（常勤職員1名増員）（常勤換算12.5名 管理者含む）

令和4年度（2名受入）

1日平均利用者43人（50名在籍）
職員態勢14名（常勤換算12.5名 管理者含む）

【成果と課題】

年度末の在籍者数は43名で、1日平均利用者数は35.3人となり、前年度比1.2人増加したものの目標の37人には届かなかった。しかし、給付費収入は前年度比約185万円増の約6,200万円となった。

3月はコロナウイルス流行の影響があり、計画より20万円程度の減収となった。

(2) 月次試算による経営状態の把握

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

【成果と課題】

月次試算に基づく分析表を変更し、経営状態の把握が容易になった。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

8 その他の成果と課題

1) クッキーおよびパン製造事業における衛生管理の取り組み

手や作業衣の清潔保持、食品の衛生管理等について職員や利用者に周知徹底を図り、今年度、異物の混入等の事故報告は0件であった。

9 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後4時
(3) 年間延開所日数 244日間 (前年度 244日間)
(4) 平均活動時間 7時間

10 利用状況

- 1) 利用者延人員 8,618人 (前年度 8,327人)
2) 1日平均利用人員 35.3人 (前年度 34.1人)
3) 体験実習者延人員 72人 (前年度 92人)
4) 1日平均実習人員 0.29人 (前年度 0.38人)
5) 実習者実人員 18人 (前年度 12人)

11 利用者状況 (令和2年3月31日現在)

- 1) 年齢
20歳未満 2名
20歳以上30歳未満 16名
30歳以上40歳未満 8名
40歳以上50歳未満 11名
50歳以上60歳未満 5名
60歳以上70歳未満 0名
70歳以上 1名
- 2) 障害の状況
愛の手帳 41名 (内身障手帳4名、精神保健手帳2名)
身体障害者手帳 5名 (内愛の手帳4名)
精神保健福祉手帳 3名 (内愛の手帳2名)
手帳不所持 0名
- 3) 通所手段
送迎車利用 16名 (内2名家族送迎、4名交通機関)
交通機関利用 9名 (内5名送迎)
徒歩等 19名
家族送迎 6名 (内2名送迎)
- 4) 居住状況
管内居住 34名 管外居住 9名
- 5) 性別
男性 25名 女性 18名

1.2 利用者工賃

平均工賃	月額	:	12,415円	(前年度	16,015円)
	日給	:	776円	(前年度	947円)
	時給	:	231円	(前年度	282円)

1.3 生活支援PG実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数	98日
(2) 週平均実施日数	1.9日

2) 利用者(令和2年3月31日現在)

(1) 利用者数	2人
(2) 利用者延人数	125人

3) 支援者(令和2年3月31日現在)

(1) 職員	5人
(2) アルバイト	6人
(3) 職員延人数	31人
(4) アルバイト延人数	95人

4) 内容

(1) ウォーキング	97回
(2) プール	48回

1.4 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実17名 延べ460名
(2) 延実施回数: 147回

【月別実施状況】

実施月	実施回数	延参加人数
4月	: 12回	39人
5月	: 13回	42人
6月	: 12回	42人
7月	: 14回	44人
8月	: 13回	39人
9月	: 12回	40人
10月	: 12回	42人
11月	: 13回	38人
12月	: 11回	36人
1月	: 11回	39人
2月	: 12回	36人
3月	: 12回	23人
合計	147回	460人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
カラオケ	22回	145人
入浴	15回	31人
散歩	8回	10人
ドライブ	19回	24人
ボウリング	24回	92人
料理	12回	74人
プール	21回	40人

スポーツ	4回	9人
パソコン	12回	15人
テーブルゲーム	8回	17人
すいか割り	1回	2人
初詣	1回	1人
合計	147回	460人

1.5 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。